

令和7年度

# 産山村立産山学園

校訓 We have a dream 私たちには、夢がある

学校教育目標

ふるさとを誇りとし 夢や目標に向かって 主体的に考え行動する学園生の育成

研究テーマ

主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成

Thinking

9年間を  
見通した

Teamwork

つながり  
つながる  
カリキュラム

Challenge

## 内容①

実態をもとにした授業改善

- ① 自力で情報を取り出す力をつける授業づくり
- ② 子ども自身が学びを確認する「まとめ」ができる授業づくり

## 内容②

学びとくらし、地域をつなぐ  
教育活動の充実

- ① ヒゴタイ・イングリッシュ
- ② うぶやま学
- ③ チャレンジ学習

人権教育の視点・ICT教育の推進

信頼される学校づくり

コミュニティ・スクール

地域と連携した居場所づくり

学園生の実態・願い

地域学校協働本部  
(学校応援隊)

保護者・産山村の願い





## 学園生の実態

### ◆授業における学園生・教職員の状況から



- 友達や周りの人と話し合い、協力しながら学習をすることができています。
- 産山の良さを生かした学習が多く、様々な体験ができます。
- 学習や活動に一生懸命取り組みますが、一人で考えたり自分の考えを表現したりすることは苦手です。

- 学園生が「分かる」授業づくりを目指す一方で、先回りの支援や教師主導による学習活動の場が多かったように思います。
- 学園生が自分に自信をもつために、体験活動を通して、学園生が達成感を実感できるようにしたい。



### ◆学力調査等の結果から明らかになった課題

令和5年12月に行った県学力調査によると、国語科では、前期課程において「知識・技能」、「思考・判断・表現」の問題に課題が見られた。算数・数学科では、「思考・判断・表現」の問題において全国の値を下回っている学年があった。

「主体的に学習に取り組む態度」は、学力調査の結果では全国の値より高い結果であったが、令和6年4月の学園生の意識調査では「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問に対して「あまり取り組めていない」と答えた割合が全国の値と比べて高く、主体的に学びに向かう態度の育成に力を注ぐ必要があると考えた。

### ◆問題分析から明らかになった学習指導の在り方

- 課題把握の場面で「自力で情報を取り出すこと」に課題がある。課題把握の場面での、教員の支援のあり方や必要な手立てを工夫する必要がある。
- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫すること」に課題がある。授業の終末に、学園生が主体的に学んだことをまとめるために必要な手立てを行う。
- 感動体験や成功体験の項目に課題がある。地域と連携して、産山の特色ある体験活動の充実を図り、学園生の自己肯定感を高めていきたい。

四 原さんの学級では、日ごろから読んだ本を記録しています。次は、【原さんの読書の記録】です。原さんは自分の記録を読み直し、気づいたことを（ ）にまとめています。（ ）に入る内容として最も適切なものを選んで番号を書きましょう。

(全国学力学習状況調査問題 6年 問題 四)

目的に合った情報の整理の仕方を学んだり、選んだりする力を付ける必要があります。

複数の情報を整理することで、考えを明確にしたり、思考をまとめたりすることができることを実感できるように指導する必要があります。

## 研究のグループ (R7)

授業デザイングループ

一人一人の教員の課題を  
協働的に解決するグループ

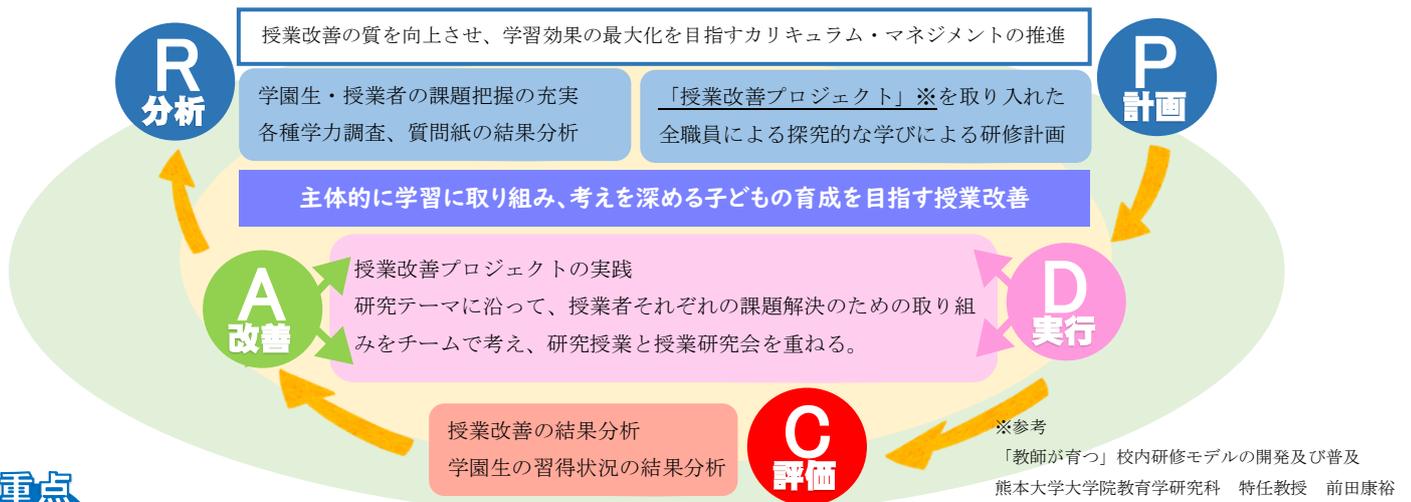
情報を取り出す力を高める  
グループ

知識・技能を高めるグループ

学びの根拠グループ (内容2)

# 内容① 「実態をもとにした授業改善」のための研究の方法と2つの視点

実態分析をもとにした授業改善を行うことにより、学びに向かう力や自己肯定感が高まり、学園生が確かな学力を身につけることを目指します。



## 重点1

### 自力で情報を取り出す力を育む授業

児童・生徒の問いを引き出すとともに、課題設定の方法や解決への見通しのもち方も身につけさせたい。

## 重点2

### 「まとめ」で自分の学びを確認する授業

自分の言葉でまとめるためには、学年や実態、各教科に合った、言語活動も充実させたい。



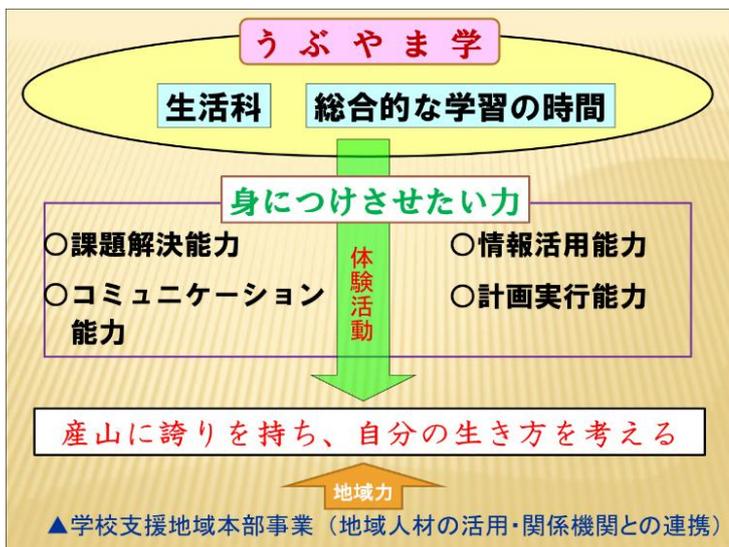
めざす学園生 「学んだこと」を自分の言葉で明らかにする学園生

# 内容② 学びとくらし、地域をつなぐ教育活動の充実

自己の成長が実感できる体験活動や表現活動を行うことにより、学園生が学習における達成感を味わうとともに、自尊感情を高め、自他を尊重しようとする豊かな心を育むことを目指します。

## ヒゴタイ・イングリッシュ(ヒゴタイ交流を核とした英語教育)

ヒゴタイ交流を核とした英語教育の充実のために、1年生から9年生まで、英会話科における英語教育の実施。



## チャレンジ学 通称「チャレ学」

「漢字検定」「算数・数学検定」  
 「英語検定」「タイピング検定」

△児童・生徒が自分で目標を設定  
 △複数の教員できめ細やかな指導

○基礎基本の定着  
 ○学習意欲の喚起  
 ○発展的学習  
 ○個々の力を伸ばす

各種検定へチャレンジ

# 内容① 研究の実際

## 第8学年うぶやま学人権学習「西光万吉さんの姿から学ぼう授業デザイングループ」

### 重点

#### 1

自力で情報を取り出す力を育む手立て

**シンキングツール（ピラミッドチャート）を使うことで、「現状の自分・学級の姿」「何で達成できていない**



**か。根底にある思いは何か。」「なりたい自分・学級の姿」を可視化できるようにした。**

### 重点

#### 2

「まとめ」で自分の学びを確認する手立て

**生徒が自分の思いや考えを十分に言語化する時間を確保したことで、目指す自己像や学級の姿に近づけない背景にある要因を、よりの確に把握することができた。**

① 西光さんの願いをふまえて、自分や学級を振り返ろう。

② 「自分は西光さんが願ったような人間関係を学級で築けているのだろうか」

自分の意見を言う時に、周りにどう思われるか分からず、言いたいことが言えないままの時がある。



③ なぜ達成することができないのだろうか。

根底にある思いは何だろう。

体育で失敗した時に笑われたことがあるから、周りを気にするようになった。

誰かに嫌な思いをさせたくないという気持ち。

④ 綴った思いを伝え合う。

できない背景にある気持ちを整理し、次にどう行動するか考えることができた。



### 重点

#### 1

自力で情報を取り出す力を育む手立て

## 第7学年 音楽 創作×器楽「旋律づくり」 情報を取り出す力を高めるグループ

**必要なときにいつでも確認できるようヒント集を用意することで、音色（奏法）や強弱、速度を試しながら自分のイメージに合う表現を選択できるようにした。**



① 自分の旋律に工夫を加えて、表現をさらに深めよう。（産山の魅力を伝える旋律をつくろう）

② その工夫を取り入れる理由やねらいをワークシートに記入し、箏で実践する。

◇静かで落ち着いている水源のイメージを表現するために、速度をゆっくりにしてみよう。

③ 聴き合い活動を行い、感想や改善点を話し合う。＜ペア→全体＞



◇友達にアドバイスをもらって「もう少し明るくするために、ビブラートを入れ、小さくやさしく力を抜いて」ひいてみたいと思った。

④ 新たな発見と自分の工夫を生かしたことの振り返り、自分の言葉でまとめる。

（川の流れがきらきらしている）イメージをより豊かにするために、（流し爪の奏法を取り入れる）工夫をした。など

### 重点

#### 2

「まとめ」で自分の学びを確認する手立て

**聴き合い活動を通して様々な表現に触れ、自分の表現も認められることで、工夫した点を振り返り、自分の言葉でまとめられるようにした。**

【振り返り】工夫したこと

明るくするために、「最後のビブラートを入れてみたり、もう少し小さく優しく力を抜いてひいたりすると良い」というアドバイスをもらいました。今日は、それをもとに音を変えて、高く音が出るのをに入れて工夫しました。

自力で情報を取り出す力を育む手立て

使ってほしい表現や態度ができている児童の会話を見せること

で、お互いを知るために工夫すること、表現を共有、確認することができた。



「まとめ」で自分の学びを確認する手立て

中間指導での確認や、工夫したいことを板書することで、授業の終末に自分の言葉でまとめを書くことができるようにした。

【目標】がっきゅうのすきなもののランキングをつくらう

わたしは、えかあや木目手にとんなことをかえりかもうまくできました。たいせいなことは、木目手ときもちをあわせることと、思いまげ、つきは、外の人がうまくえいごを言えたらいいなと、思いました。

あー、なるほど！と、わかったこと  
か いけつしたいし、らべたいこと  
うまくいったこと、そのりゆう  
し じぶんが、どのように、かわったか  
どん どんなふうに、学びをいやすか

① 学級のすきなもののランキングをつくらう  
(何が好きか尋ねたり答えたりして伝え合おう)

② お互いを知るために工夫したいこと、使いたいけど自信のない表現などを確認する。(中間指導)

- 相手を見て、笑顔で聞いてみようかな。
- ゆっくりはっきり言ってみようかな。

③ Activity2 (やりとり) を行う。

- 相手を見て、笑顔で聞こえる声ではっきり話すと伝わりやすい。
- すきなものをたずねるときは、What○○を使うとよい。



④ 『あかうしどん』の『し』の視点で自分の学びを確認する。  
○うまくできたこと、上手になったことなどを振り返って記入する。

内容② 学びとくらし、地域をつなぐ教育活動の充実

過程	時間	学習活動等
一次	1	○子どもヘルパー活動の年間の活動を見通す。 ○地域の方とアイスブレイク活動を通して交流を深める。
二次	5	○訪問活動に向けて民生委員や社協の方と交流を深め、支援者の情報を交換する。 ○研修会を通して、高齢者と上手にコミュニケーションをとるためのポイントを学ぶ。 ○支援者の家を訪問して、支援者とのコミュニケーションを深める。(第1回訪問) ○支援者とのコミュニケーションを通して、相手の状況をつかむ。 ○第1回訪問をふり返り、次回の訪問の見通しを立てたり、ミッションを設定したりする。
三次	6	○前時でたてた見通しやミッションを達成するための訪問計画をたてる。 ○支援者の家を訪問して、円滑にコミュニケーションをとりながら、支援者のニーズに応じた活動を行う。(第2回訪問) ○第2回訪問活動をふり返る。 ○支援者の方々への年賀状を作成する。 ○2回の訪問活動を通して成果と課題を分析し、分析したことを表現する。

1回目の訪問活動を生かして次回のミッションを考える。



今回は、聞く力、話す力を大事にすることと、表情を大切にしながら活動したい。高いところの窓拭きができないと言われていたから率先して行おう。

第1回目の訪問活動で相手のニーズを聞き出す質問を行い、第2回目の訪問活動の意義を高め、内容を考えることができた。

支援者のニーズに応えるために

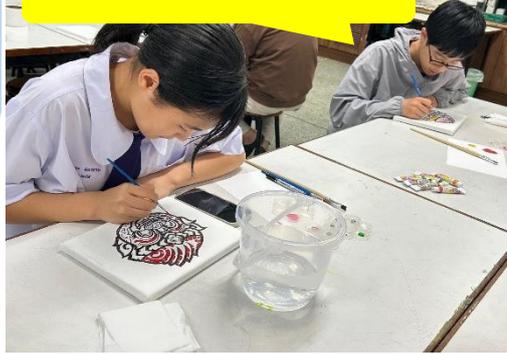
「楽しい一日だった。一緒に趣味の活動ができてよかった。」と喜んでもらったのが嬉しかった。今後も支援者の方と関わっていきたい。



支援者のニーズに応えることで、ヘルパーの目的を意識して活動を行うことができた。また、コミュニケーションの大切さを改めて考えることができた。

令和7年度でヒゴタイ交流は38年目を迎えた。実践的な学習を通して英語教育の充実を目指している。

カセサート大学附属中の授業に参加



英会話の授業で産山学園を案内する5年生

第37回派遣

8月3日～23日（3週間）

生徒4名 引率教諭1名

第38回受入

9月28日～18日（3週間）

生徒4名 引率教諭1名

第4～7学年 ヘルパー活動

社会福祉の各取組を行うことで、産山の一人としての自覚を深め、村民のウェルビーイングの向上に寄与する。

【各学年の取組】

4年：「ゴールドクラブ（介護予防・生きがいがづくり）会員との交流」

5年：「通所介護事業所ほっと館利用者への福祉プログラム提供」

6、7年：「支援者へのヘルパー活動」

※ 学園生の市民性を培うことに賛同する要支援者宅を訪問。

※村社会福祉協議会及び民生委員と連携



第1回目の訪問で、考えてきたカードゲームを楽しむ支援者と7年生

支援者のニーズに応じて、窓拭きをしながら支援者と会話をする7年生



第9学年 子ども議会

村当局と直接意見交換をすることにより、村民の一人として自覚を高める。

うぶやま学の最終的なゴールとなる「子ども議会」で、9年生が自分のふるさを見つめ、産山を将来どのようにしたいのか、理想に向かって夢や希望を語る。

【実現した子供達の理想の例】

天文台の建設／「山鹿川」の名称変更／新制服の採用等



「子どもからお年寄りまで、みんなが安心して暮らせる村づくりに大切なことは何だろう・・・」

「自然共存型のイベントスペースを活かして、もっと産山村の良さを知ってもらいたいです。」



体験活動の充実

わくわくキッズデー



1st ステージは野菜の苗植え、3rd ステージは保育体験等、保小中一貫プログラムに基づいて交流している。

鯉農法による米作り



地域の方に御協力いただき、田植えの後に鯉を入れて、無農薬による米の栽培を行っている。

御所浦との海山交流



昭和63年から交互に訪問。今年度は、御所浦の方たちが来村されて、川遊びなどをして交流を深めた。

## ☆☆☆☆成果☆☆☆☆

### 教職員アンケートから (R8. 2月実施)

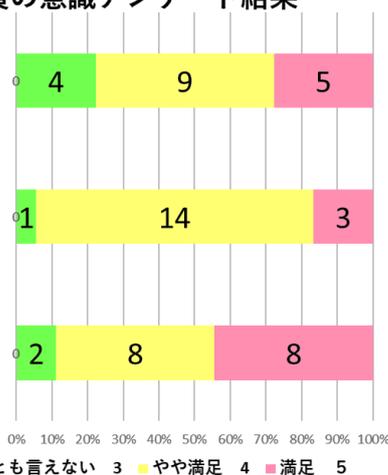
○ 一人一人が主体的に授業改善に取り組めるよう、テーマごとにグループを作り、校内研修に取り組んだ。お互いの授業作りにアドバイスし合ったり授業を見合ったりすることが、授業改善につながったと考えられる。

### 学園生の実態から (県学力調査、i-checkの結果より 12月実施)

- 全学年で見ると、国語、算数・数学ともに、県の平均を上回った。特に、国語では「思考・判断・表現」が高く、論理的な読解力や記述力に強みが見られた。
- i-checkの結果から、「学級の絆」「発信力」「対話・話し合い」が全国平均を大きく上回り、集団の「安心感(絆)」が醸成された。
- 英語科においては、過去6年間の結果から、全国平均以上の数値であった。外国語活動及び英語科、英会話科の授業の成果が結果に表れていると推察する。

#### 研究に対する教職員の意識アンケート結果

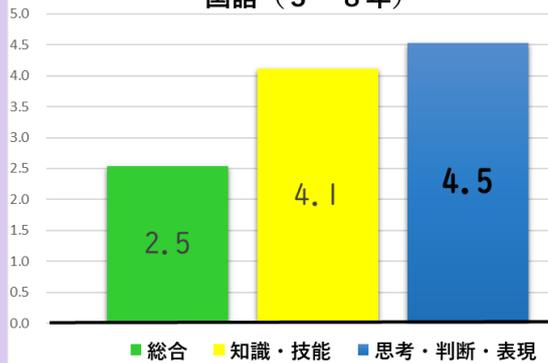
重点事項1 「自力で情報を取り出す力」を身につける工夫はできたか。



重点事項2 「自分の学びを確認するまとめ」の工夫はできた

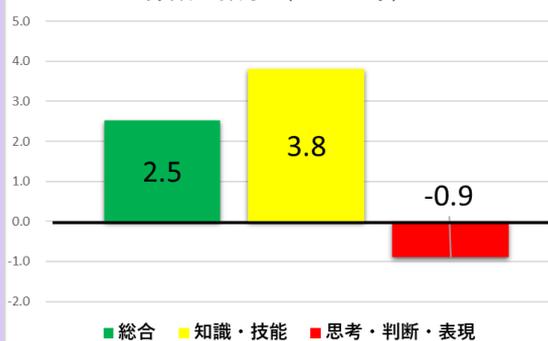
学力調査等の分析は授業改善に有効であったか。

#### 国語 (3~8年)



全国の平均値を0としたときの値

#### 算数・数学 (3~8年)



#### i-checkの結果から

強み: 絆と対話

課題: 成功体験と自信



### ◆◆◆課題解決に向けた取組◆◆◆

- 学年が上がるにつれて「思考・判断・表現」において課題が見られる。学級の絆を基盤に、協働的な学びを充実させ、多様な視点で課題を解決し、成功体験を重ねる。
- 学園生が、自分自身の変容を言語化し、できた自分を肯定したり成功を自覚できたりする「振り返り」を充実させ、確かな自信の定着を目指す。